

解答

12月号

1	(1)	30
	(2)	0.12
	(3)	$\frac{7}{12}$
	(4)	$\frac{2}{3}$

2	(13)	149.8	cm
	(14)	25	度
	(15)	16.8	cm
	(16)	18	cm

2	(1)	19	個
	(2)	600	円
	(3)	144	km
	(4)	15	回転
	(5)	6	cm
	(6)	2	km
	(7)	25	
	(8)	9	
	(9)	75	度
	(10)	$49\frac{1}{11}$	分
	(11)	1100	m
	(12)	30	秒

3	(1)	イ・ウ・カ・ク・コ
	(2)	ウ・エ・ク

4	(1)	84	度
	(2)	46	度

5	(1)	1	:	3
	(2)	162		cm ²

6	(1)	300	円
	(2)	2100	円

7	(1)	毎秒	25	m
	(2)		1800	m

1
/20
5点×4

2
/80
5点×16

【完答】

3
/10
5点×2

4
/10
5点×2

5
/10
5点×2

6
/10
5点×2

7
/10
5点×2

解答

12月号

1

(1)	1.0	秒	(2)	なるべく正確な値を求めるため。 (誤差を小さくするため)		(2) 【同意可】			
(3)	ウ	(4)	エ	(5)	2.0	秒	(6)	イ	1 /18 3点×6

2

(1)	①	部分	B	名前	内えん	②	部分	A	名前	外えん	(1) 【完答】
(2)	①	ア	②	ウ	③	イ	④	ア			
(3)	①	ア	②	ほのおをあげて燃える。			(4)	イ	(3)② 【同意可】 (5) 【同意可】		
(5)	ろうの気体が金あみに冷やされ、発火点未満の温度になったから。								2 /30 3点×10		

3

(1)	①	ア	②	イ	(2)④ 【同意可】	
(2)	①	エ	②	れき岩		③
(4)	①	南	から	北	へ下がっている。	3 /36 4点×9
(4)	②	南	14	m	(4) 【完答】	

4

(1)	ウ	(2)	シラス	(3)	①	イ	②	ウ	4 /16 (4)4点 他3点×4
(4)	活火山								

解答

12月号

(1)	1889	年	(1)【算用数字指定】								
(2)	①	工	②	はんばつ 藩閥	政治	③	じゆうみんけん 自由民権	運動	④	工	
(3)	いとうひろぶみ 伊藤博文										
(4)	①	ドイツ (プロシア・プロイセン)		②	ウ	③	工				
(5)	ア										

1
/30
3点×10

(1)	A	工	B	キ	(2)	目	安	箱	(2)【漢字3字指定】	
(3)	おおしおへいはちろう 大塩平八郎		(4)	イ	(5)	ウ				
(6)	工	(7)	工							

2
/16
2点×8

(1)	1873	年	(2)	B	京都	C	横浜	
(3)	ア	(4)	イ	(5)	イ	(6)	ウ	(1)【算用数字指定】 (2)【漢字指定】
(7)	工	(8)	満	20	歳	(9)	工	(8)【算用数字指定】

3
/30
3点×10

(1)	①	イ	②	ウ	(2)	①	ウ	②	工	
(3)	①	ウ	②	カ	③	さんごくかんしょう 三国干涉				
(4)	B		→	C		→	A			

4
/24
3点×8

※指定以外のひらがな可・漢字まちがい不可

① <脚本>

脚本とは、舞台や映画、テレビなどでドラマを演じるために作られた本であり、役者が語る「せりふ」と、まわりのようすや人物の動作などを説明した「ト書き」とからなっているとこに特徴があります。

- (1) ようすや人物の動作などを説明した部分を「ト書き」といいます。また、役者の語ることは「せりふ」です。
- (2) そのときのふたりのようすを想像しましょう。
 - A ウミヒコの動作です。アカイになります。このときにはヤマヒコのすがたは見えていないはずですから、「音」を選びます。
 - B ヤマヒコの動作です。ウカ工ですが、そのようすを見たウミヒコが「だめだったのか」とすぐ反応していますから、「てれて……」のほうがいいでしょう。
 - C ウミヒコの動作です。直前のヤマヒコの動作を見ているはずですが。
 - D ヤマヒコの動作です。直後の(無言のまましりごみをする)と同じように、針を返すことができず、こまっているようすを入れましょう。
- (3) 「おまえが、たつていうから、きょうだけは、仕事をとりかえてみたが」とあります。ヤマヒコは「きょうだけ仕事(道具)をかえてみよう」などといったのでしょう。
- (4) このとき、ウミヒコは、ヤマヒコの提案の結果、ろくでもないことになってしまったと批判しています。これでは、ヤマヒコひとりが悪者になってしまいます。ヤマヒコとしては、もっといい結果が出たかもしれないと、言い張るしかなかったのでしょう。
- (5) ヤマヒコは自分の失敗や無力を「きょうは、潮のぐあいかわるかったんだ」と、潮のせいにし、決してみとめようとはしません。そして、そんなヤマヒコをウミヒコは「妙なところに意地をはるね」と表現しています。ウミヒコから見れば、ヤマヒコは「いじっぱり」なのですね。
- (6) 「二の舞」ということばがあります。おぼえておきましょう。
- (7) 「一朝一夕」で、一つの朝と一つの夕方、つまり、わずか一日という意味になり、ひいては、わずかな時間という意味にもなります。
- (8) ヤマヒコは、どうしても針を返すことができないのですが、いじっばりのヤマヒコは、「針をなくしました」ということができません。そのことばの代わりに弓をわたしたのは、これで、針の代わりにしてほしいという気持ちの表れであり、つまり、ヤマヒコとしてはつぐないにしたかったのでしょう。
でも、ウミヒコは「おれは、もう道具をとりかえるのはいやだと、さっきからいつているじゃないか」と応じていますから、もうしばらく、道具をとりかえたままでいたいという意味にとってしまったようです。
- (9) 兄は、「さかな釣りが山にはいたり、^{りょうし}が釣りがザオを持ったりするから、こんな、バカバカしいことになるんだ」とか、「釣りだって、なんだって、一日や二日で、そううまくとれるものじゃない」と、常識的なことをいっています。一方、弟のヤマヒコは、新しいことにチャレンジしてみたいという気持ちはあるようですが、自分の失敗を素直にみとめることのできない性質でもあるようです。一般的にはウミヒコは大人で、ヤマヒコはおさない子どもということができそうです。

2 <説明文>

「おやすみなさい」「さようなら」のちがいを、親しい間柄にだけ使われるあいさつことばと、広く使われるあいさつことばについて述べた文章です。

- (1) 「……説明すればよかったことになる」という段落がありますね。
- (2) 本文では、「家族的な間柄から社会的な間柄まで」と、二つに分類しています。「さようなら」は「家族的な間柄」では使わないのですから、「社会的な間柄」の場面か、「改まった場面」ということになります。
- (3) 「『それでは』『では』『じゃあ』などの順に家族的な方向に進む。この、家族へ向かう方向と、つながりを持ち続けたいという気持ちの強さは比例している」というところをよくみてください。「つながりを持ち続けたいという気持ちの強さ」があいさつことばを選ぶ基準になっていることがわかります。
- (4) 「『おはよう』や『おはようございます』が家族的な間柄から社会的な間柄まで……のに対し、『こんにちは』『こんばんは』は社会的な間柄でしか使われない」の部分を使い、無関係な『おはようございます』『こんばんは』を取り除けばいいでしょう。
- (5) 「例えば『さようなら』が……いずれも下に続くことばを省略して、つなぎの部分だけ残した形である」から答えがわかります。

3 <敬語>

自分や身内のもの、動作にはけんじょう語を使い、相手のもの、相手の動作にはそんけい語を使うと区分すればいいでしょう。とりたてて相手のものでもないのに、「お……」などと使うのはていねい語ということになります。

4 <四字熟語>

- ① 一進一退(いっしんいつたい)
- ② 一心不乱(いっしんふらん)
- ③ 絶体絶命(ぜったいぜつめい)
- ④ 異口同音(いくどうおん)
- ⑤ 古今東西(ここんとうざい)
- ⑥ 我田引水(がでんいんすい)
- ⑦ 単刀直入(たんとうちよくにゅう)
- ⑧ 意味深長(いみしんちょう)

1 <計算問題>

$$(1) (13 \times 19 - 13 \times 13) \div 3 + 4 = 13 \times (19 - 13) \div 3 + 4 \\ = 13 \times 6 \div 3 + 4 = 13 \times 2 + 4 = \underline{30}$$

$$(2) (1.2 \times 1.8 - 9 \times 0.04) \div \square = 15, (2.16 - 0.36) \div \square = 15 \\ 1.8 \div \square = 15, \square = 1.8 \div 15 = \underline{0.12}$$

$$(3) \frac{3}{4} + 1 \frac{1}{9} \times \frac{3}{5} - \frac{5}{6} = \frac{3}{4} + \frac{10}{9} \times \frac{3}{5} - \frac{5}{6} = \frac{3}{4} + \frac{2}{3} - \frac{5}{6} = \frac{9}{12} + \frac{8}{12} - \frac{10}{12} = \underline{\frac{7}{12}}$$

$$(4) \left(1 \frac{1}{2} - \square\right) \times 1 \frac{4}{5} - 1 \frac{1}{3} = \frac{1}{6}, \left(\frac{3}{2} - \square\right) \times \frac{9}{5} = \frac{1}{6} + \frac{4}{3} = \frac{9}{6} \\ \frac{3}{2} - \square = \frac{9}{6} \times \frac{5}{9} = \frac{5}{6}, \square = \frac{3}{2} - \frac{5}{6} = \frac{9}{6} - \frac{5}{6} = \frac{4}{6} = \underline{\frac{2}{3}}$$

2 <一行問題>

$$(1) 24 \times \frac{2}{2+1} = 24 \times \frac{2}{3} = 16, 16 + 3 = \underline{19 \text{個}}$$

$$(2) 1500 - 900 = 600, 600 \div (3 - 1) = 300, 1500 - 300 \times 3 = \underline{600 \text{円}}$$

$$(3) 108 \times \frac{20}{15} = 108 \times \frac{4}{3} = 36 \times 4 = \underline{144 \text{km}}$$

$$(4) 75 \times 12 \div 60 = \frac{75 \times 12}{60} = \frac{75}{5} = \underline{15 \text{回転}}$$

$$(5) \frac{3 \times 1000 \times 100}{50000} = \frac{3 \times 100}{50} = 3 \times 2 = \underline{6 \text{cm}}$$

$$(6) \frac{8 \times 25000}{100 \times 1000} = \frac{8 \times 25}{100} = \frac{8}{4} = \underline{2 \text{km}}$$

$$(7) 20 \times \frac{15}{12} = 20 \times \frac{5}{4} = \underline{25}$$

$$(8) \frac{12 \times 15}{20} = \frac{12 \times 3}{4} = 3 \times 3 = \underline{9}$$

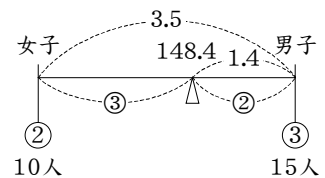
$$(9) 30 \times 3 = 90, 30 \times (6 - 0.5) = 165, 165 - 90 = \underline{75 \text{度}}$$

$$(10) 30 \times 3 = 90, 90 + 180 = 270, 270 \div \left(6 - \frac{1}{2}\right) = 270 \times \frac{2}{11} = \underline{49 \frac{1}{11} \text{分}}$$

$$(11) 1 \text{分} 20 \text{秒} = 80 \text{秒}, 16 \times 80 - 180 = \underline{1100 \text{m}}$$

$$(12) (110 + 100) \div (25 - 18) = 210 \div 7 = \underline{30 \text{秒}}$$

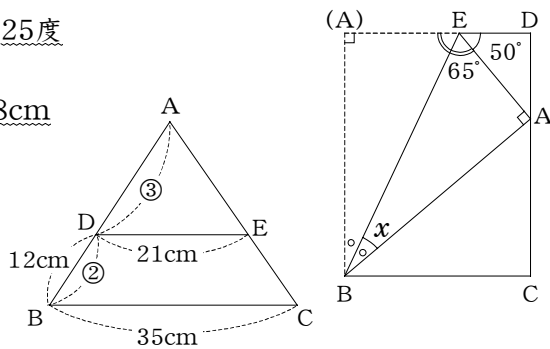
$$(13) 3.5 \times \frac{2}{5} = 1.4, 148.4 + 1.4 = \underline{149.8 \text{cm}}$$



(14) $180 - 50 = 130$, $130 \div 2 = 65$, $90 - 65 = \underline{25}$ 度

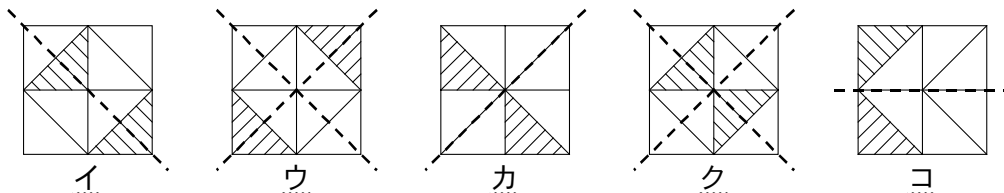
(15) $9 : 21 = 3 : 7$, $7.2 \times \frac{7}{3} = 2.4 \times 7 = \underline{16.8}$ cm

(16) $35 : 21 = 5 : 3$,
 $(5 - 3) : 3 = 2 : 3$, $12 \times \frac{3}{2} = \underline{18}$ cm



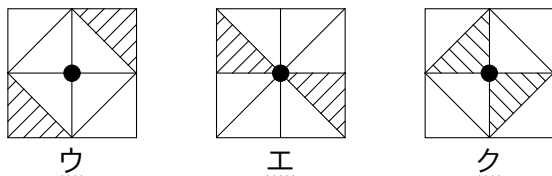
3 <線対称・点対称—標準問題>

(1)



(点線は対称の軸)

(2)

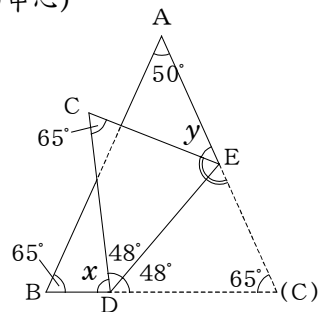


(点は対称の中心)

4 <図形の折り返し—標準問題>

(1) $x = 180 - 48 \times 2 = 180 - 96 = \underline{84}$ 度

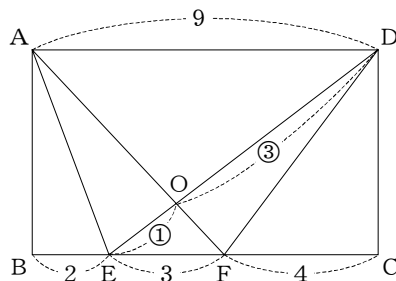
(2) $(180 - 50) \div 2 = 65$ …角B, 角C
 $180 - (48 + 65) = 67$
 $y = 180 - 67 \times 2 = 180 - 134 = \underline{46}$ 度



5 <合同と相似—標準問題>

(1) 右の図で、三角形EFOと三角形DAOは相似です。
 $EO : DO = EF : DA$
 $= 3 : (2 + 3 + 4) = 3 : 9 = \underline{1 : 3}$

(2) 相似な図形の辺の比が $1 : 3$ ならば、
面積の比は、 $1 \times 1 : 3 \times 3 = 1 : 9$ です。
したがって、三角形ADOの面積は、
 $18 \times 9 = \underline{162}$ cm² となります。



6 <比と割合—応用問題>

(1) 和が一定の問題です。

$$4 + 5 + 6 = 15 \quad \text{と,} \quad 2 + 3 + 7 = 12 \quad \text{の}$$

最小公倍数に合わせます。

$$360 \div (16 - 10) = 60, \quad 60 \times (20 - 15) = \underline{300\text{円}}$$

(和)	A : B : C		A : B : C
(15)	4 : 5 : 6	$\xrightarrow{\times 4}$	16 : 20 : 24
		\downarrow	\downarrow
(12)	2 : 3 : 7	$\xrightarrow{\times 5}$	10 : 15 : 35

(2) $60 \times 35 = \underline{2100\text{円}}$

7 <通過算—応用問題>

(1) ホームの長さを①m,

トンネルの長さを⑨mとします。

$$1 \text{分}18 \text{秒} = 78 \text{秒}$$

$$(\textcircled{9} + 150) - (\textcircled{1} + 150) = \textcircled{8}$$

$$78 - 14 = 64 \quad \text{より,}$$

この電車は⑧m進むのに

64秒かかることがわかります。

これより, ①m進むのには,

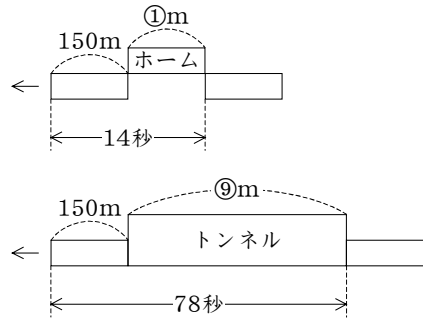
$$64 \div 8 = 8 \text{秒} \quad \text{かかることがわかります。}$$

したがって, この電車は,

$$150 \text{m} \text{進むのに, } 14 - 8 = 6 \text{秒} \quad \text{かかります。}$$

これより, この電車の速さは,

$$150 \div 6 = \underline{25\text{m/秒}} \quad \text{となります。}$$



(2) $25 \times 78 - 150 = \underline{1800\text{m}}$

① <ふりこ>

- (1) 表から、長さ25cmのふりこが10往復するのにかかる時間が、10.0秒であることがわかります。したがって、
 $10.0\text{秒} \div 10 = 1.0\text{秒}$
- (2) ふりこが1往復するのにかかる時間はたいへん短いため、正確にはかることは困難です。したがって、10往復にかかる時間を測定し、これを10で割って平均を求めます。
- (3)(4) 長さ25cmのふりこの周期は1.0秒、長さ100cmのふりこの周期は2.0秒 ($20.0\text{秒} \div 10$)、長さ225cmのふりこの周期は3.0秒 ($30.0\text{秒} \div 10$) です。したがって、25cmのふりこの周期が1.0秒であることを基じゅんにすると、長さが4倍 ($100\text{cm} \div 25\text{cm}$)、9倍 ($225\text{cm} \div 25\text{cm}$) のとき、周期が2倍 ($2.0\text{秒} \div 1.0\text{秒}$)、3倍 ($3.0\text{秒} \div 1.0\text{秒}$) になることがわかります。したがって、周期を2倍、3倍にするためには、長さを4倍 (2×2)、9倍 (3×3) にする必要がある、ということになります。
- (5) 左はしからくぎまでが長さ225cmのふりこの $\frac{1}{4}$ 往復、くぎから右はしまでが長さ25cm ($225\text{cm} - 200\text{cm}$) のふりこの $\frac{1}{4}$ 往復、右はしからくぎまでが長さ25cmのふりこの $\frac{1}{4}$ 往復、くぎから左はしまでが225cmのふりこの $\frac{1}{4}$ 往復です。したがって、長さ225cmのふりこが $\frac{1}{2}$ 往復する時間と、長さ25cmのふりこが $\frac{1}{2}$ 往復する時間の合計を求めます。
- (6) ふりこの周期は長さによってのみ変化し、おもりの重さやふれはばは無関係です。くぎの位置を変えても、225cmのふりこが $\frac{1}{2}$ 往復することにはちがいはありません。しかし、25cmだったふりこが長くなる分だけ、1往復にかかる時間は長くなります。

② <ろうそくの燃え方>

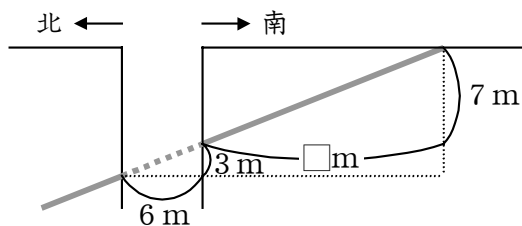
- (1) ①②Aを外えんといいます。外えんはまわりの空気と十分にふれ合い、空気中の酸素を十分に使うことができるので、完全燃焼しています。したがって、最も高温になっています。Bを内えんといいます。内えんには空気中に酸素があまり入ってこないため、不完全燃焼していて、ろうそくの成分である炭素のつぶが光っています。このため、最も明るくなっています。Cはえん心といい、まだ燃えていないろうの気体がある部分です。
- (2) ①②内えんにある炭素がガラス棒につきます。
- ③④最も温度が高い外えんの部分がこげます。金属に酸素が結びついたものがさびです。
- (3) ①えん心には、まだ燃えていないろうの気体があります。これがまわりの空気に冷やされて液体や固体のろうのつぶになって、空気中をただよいます。したがって、白いけむりのように見えます。
- ②ろうの気体が発火点以上の温度になり、ほのおをあげて燃えます。
- (4) 炭素のつぶが光をさえぎるため、内えんのかげができます。
- (5) 冷たい金あみがろうの気体を冷やし、発火点未満の温度にします。したがって、金あみから上の部分のほのおがなくなります。ただし、しばらくすると下のほのおによって金あみが熱せられ、発火点以上の温度になると、ふたたびほのおが見られるようになります。

3 <地層のようす>

- (1)①どろが固まったたい積岩を、でい岩といいます。また、でい岩がさらにかたく固まったたい積岩を、ねん板岩といいます。
- ②アサリは浅い海底にすんでいます。
- (2)①まず最も大きく、重い小石がたい積し、次に砂がたい積し、最後に最も小さく、軽いどろがたい積します。
- ②小石，砂，どろがまとまって固まったたい積岩を，れき岩といいます。
- ③火山灰が固まったたい積岩を，凝灰岩きょうはいがんといいます。
- ④ふつう，たい積岩は，流水によってしん食されてからたい積しているため，つぶが丸みを帯びています。これに対して火山灰は直接陸上や海底にたい積し，流水にしん食されていません。したがって，つぶが角ばっています。
- (3) 海底はおだやかなため，B層→C層のように，境界面はなめらかになります。E層がたい積したあと，地表面が陸上に出ると，その面が流水や風によってしん食されて，でこぼこになります。これがふたたび海底に入り，その上にD層がたい積しました。このことから，E層とD層は連続してたい積したのではなく，E層がたい積してからD層がたい積するまでのあいだに，とても長い時間が経過したことがわかります。E層とD層の重なり方を，不整合といいます。
- (4)①火山灰の層に注目します。北側の面では，道から2mの高さのところに火山灰の層がありますが，南側の面では，5mの高さにあります。つまり，南から北へと下がっている，ということになります。

- ②この地域の地層を，西側から見ると，右の図のようになっています。つまり，南へ6m行くと，3m高くなる，ということですから，□の値を次のように求めることができます。

$$6\text{ m} \div 3\text{ m} \times 7\text{ m} = 14\text{ m}$$



4 <火山と地震>

- (1) 火山ガスには二酸化炭素，二酸化いおう，塩化水素などもふくまれますが，そのおもな成分は水蒸気です。
- (2) 南九州で見られる火山灰が積もった白っぽい層をシラスといいます。また，関東で見られる火山灰が積もった赤い層（赤土）を，関東ロームといいます。
- (3)①マグマが冷えて固まった岩石を火成岩といいます。火成岩はその冷え固まり方によって，2種類にわかれます。火成岩のうち，マグマが地下深くでゆっくりと冷え固まったものを深成岩といいます。深成岩はゆっくりと冷え固まるので，つぶが大きく成長します。火成岩のうちマグマが火口近くで冷え固まったり，溶岩となって流れ出て冷え固まったりしたものを火山岩といいます。火山岩はきゅうげきに冷え固まるため，つぶがあまり大きくなりません。
- ②黒っぽい深成岩をハンレイ岩，白っぽい火山岩をリュウモン岩といいます。

① <明治時代の政治>

- (2) 民選議院設立建白書とは、征韓論に敗れ、参議をやめた板垣退助・後藤象二郎・副島種臣・江藤新平らが、1874年1月、明治政府に提出したものです。藩閥政府を攻撃し、民選(国民の選挙)による議会の開設を要求したもので、自由民権運動が始まるきっかけとなりました。
- ④工 自由民権運動は、国会の開設や憲法の制定などを政府に求めた運動でしたが、初めは不平士族が中心でした。やがて商工業者・地主・知識人らが参加するようになり、各地に政治団体がうまれて、地租の軽減・条約改正・地方自治などの要求もかかげるようになりました。
- (3) 伊藤博文は、1885年、内閣制度を創設し、初代内閣総理大臣に就任し、大日本帝国憲法の制定を指導しました。枢密院議長、貴族院議長、内閣総理大臣(4度)、初代韓国統監などを歴任しましたが、1909年、満州のハルビン駅頭で、韓国の独立運動家安重根により暗殺されました。
- (4) プロシア憲法は、1850年にプロシア(ドイツ、プロイセン)において公布され、第一次世界大戦末期まで存続した憲法です。プロイセン憲法は、皇帝の権限が強い欽定憲法であることから、明治憲法の起草者であった伊藤博文は主としてこの憲法を参考にしたといわれています。
- ③工 大日本帝国憲法の下では、内閣総理大臣は天皇の任命、地方の首長は政府の任命とされていました。
- (5) 1889年に大日本帝国憲法が公布され、帝国議会が開設されることになり、衆議院議員選挙法が公布されました。1890年に第1回衆議院議員選挙が行われましたが、このとき投票できた人は、満25歳以上の男子のみで、直接国税を15円以上を納める人に限られていたため、人口のたった約1%、45万人にすぎませんでした。このように、納税額・人種・性別・宗教・財産・教育などによって、選挙権に制限を加える選挙制度を制限選挙といいます。

② <江戸時代の三大改革>

- (1)A アは鎌倉時代の商工業の同業者組合、イは鎌倉・室町時代に港など交通の要地に住んで物資の運送・保管・販売を行った業者、ウは鎌倉時代に始まり定期的に開かれるようになった市のことです。
- B 才は江戸中期以後さかんになった日本の古典研究の学問、力は江戸時代、オランダ語によって西洋の学術や文化を研究した学問、クは江戸時代にさかんになった儒学の一派です。
- (2) 目安箱とは、享保の改革(1716~45年)で、8代将軍徳川吉宗が幕府政治に関する民間の意見を聞くため、評定所の前にもうけた投書箱のことです。この投書により吉宗は、小石川養生所や町火消しを設置しました。
- (3) 「大阪町奉行の元役人」である大塩平八郎は、天保のききんがおこると、1837年、同志とともにききんに苦しむ人々を救おうとして大阪で一揆をおこしましたが、1日で鎮圧され、約40日の潜伏の後に自殺しました。しかし、幕府の元役人が幕府の直轄地の大阪でおこした反乱は、不成功に終わったものの、幕府に大きなショックをあたえました。
- (4) アは徳川家康の性格を詠んだ句、ウは藤原道長がその栄華を詠んだ歌、工は8代将軍徳川吉宗の時代に勘定奉行の任にあった神尾春央のことです。

- (6) 工 江戸幕府や藩の収入のほとんどは、農民が納める年貢によるものでした。収入が安定するように、農民にたびたび御触書を出し、田畑の売買も禁止しました。年貢は収穫の約40～50%を納めるといふきびしいもので、その他の税なども加わり、農民は米をつくっても食べられませんでした。
- (7) アは鎌倉時代(承久の乱)、イは戦国時代、ウは室町時代について述べています。

3 <幕末～明治維新についてのできごと>

- (3) 薩長同盟(薩長連合)とは、幕末、薩摩藩(鹿児島県)と長州藩(山口県)が結んだ倒幕のための軍事同盟のことで、資料のアは、土佐藩出身の板垣退助です。
- (4) アは江戸幕府の5代将軍、ウは3代将軍、工は2代将軍です。
- (5) イは、五榜の掲示の内容です。
- (6) ウ 戊辰戦争は、明治維新の際、新政府軍と旧幕府軍の間で行われた一連の戦いです。
- (7) 工 富岡に官宮製糸場が建設された要因には、①養蚕地帯で原料の繭の確保が容易、②繰糸に必要な水が豊富、③広大な用地の取得が比較的容易、④ボイラーの燃料の石炭が近くで採掘できたことなどがあります。
- (8) 明治になっても、政府の財源の多くは農民が納める米にたよっていたので、年によって収穫に差があり、政府の収入は不安定でした。地租改正の結果、政府の財政収入は安定しましたが、これまでより収入が減らないように地価を高めめに定めたので、農民の負担は重いものでした。

4 <日清・日露戦争と条約改正>

- (1) 史料Aは、日露戦争のようすを描いたものです。
- ①ア・ウは、日清戦争後に結ばれた下関条約の内容です。また、工は「ロシア」が誤りで、正しくは「清」です(下関条約)。
- ②韓国併合は1910年に行われました。また、アは1894年(日清戦争の原因)、イは1919年(ベルサイユ条約への不満)のようですが、独立を求めてデモ行進した場所は、ソウルです。工については、このような事実はありません。
- (2) 史料Bは、ノルマントン号事件を描いたものです。
- ②条約改正については、次のように整理しておきます。

成功年	日本側代表	交渉相手国	改正の内容
1894年	陸奥宗光	イギリス	治外法権の撤廃
1911年	小村寿太郎	アメリカ	関税自主権の回復

- (3)①アは東京、イは大阪、工は京城(ソウル)を示しています。
- ②オは山東半島、キは朝鮮半島、クは(南)樺太を示しています。
- ③三国干渉とは、1895年、ロシア・ドイツ・フランスが、日清戦争で日本が領有した遼東半島を清(中国)に返せと要求したことです。このとき、武力のおとる日本は、約4700万円で清に返還しました。三国干渉は、ロシアがドイツ・フランスをさそっておこしたため、以後、日本のロシアに対する敵意が強くなりました。
- (4) 史料Aは日露戦争(1904～05年)、Bはノルマントン号事件(1886年)、Cは日清戦争(1894～95年)について描いたものなので、すなわちB→C→Aとなります。